



入れ替わって初めて  
僕は君の **好き** に触れた













宮城君？  
宮城君なの？

う……うん。  
これって……。

……入れ替わってる  
……よね？

ど……どうしよう

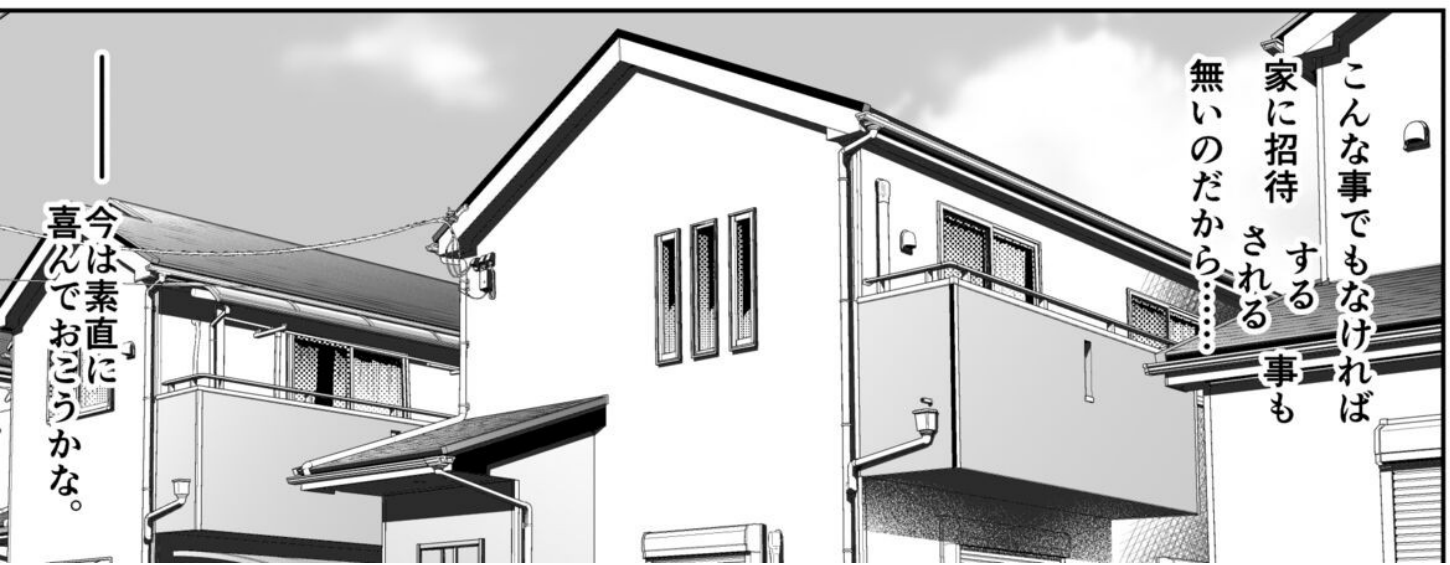
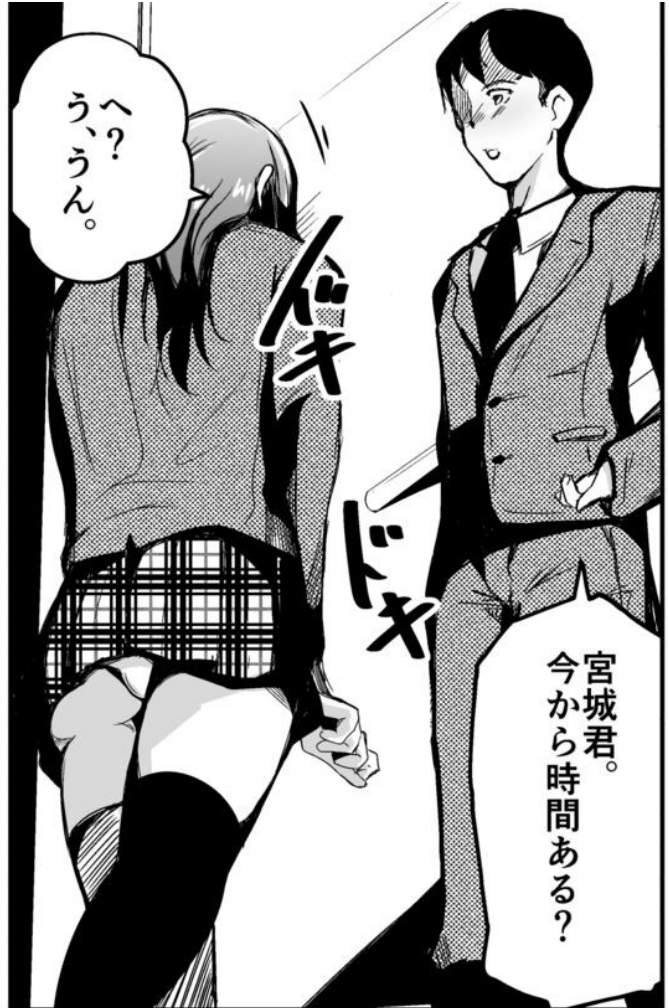
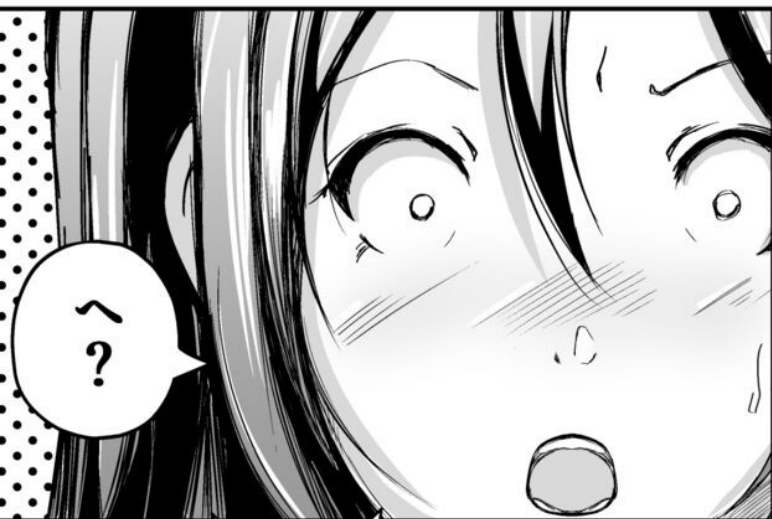
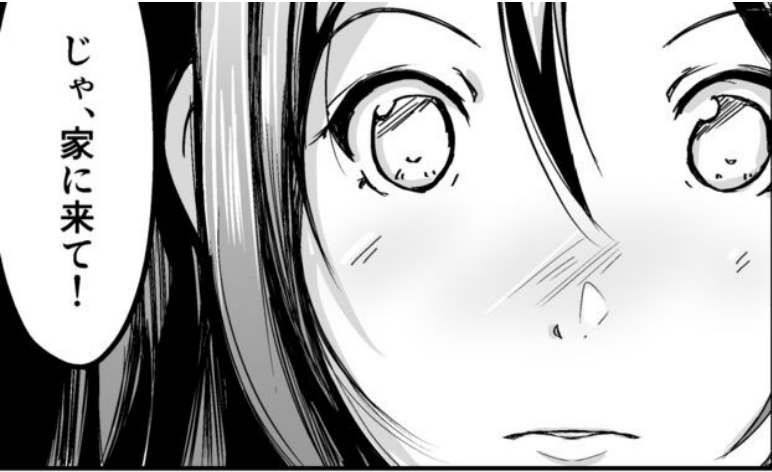
好きな人にな  
っちゃうなんて

喜んでいいのかな？  
なんか複雑でも……

おおおおお

ドキ  
ドキ  
ドキ

もももも







はあ。

これが憧れの  
山崎さんの部屋。

女の子らしい部屋だな。

それにしても――

僕が山崎さんに  
なっちゃうなんて。

今は僕が  
山崎さんなんだよな。

……カワイイ。

――そう。

アッ……

ドキッ

ドキッ



いっばいいいっばいで  
意識してなかったけど

二度意識して  
しまうとダメだ！

胸が高鳴って  
止まらない！

いけない事だと  
わかってるのに

本人しか知りえない  
感覚を味わいたい！

凄く敏感だ！

唇が

ほっぺが

鏡に触れたときの  
冷たさで

はあ

それがわかる。

山崎さんのおっぱい……。

とぎとぎ

もすっ

服の上からでもわかる  
膨らみ……柔らかさ。

そして、  
「さっきよりも更に敏感……」

ぽん

ずっと好きだった。

遠くで見てる  
しかなかった、彼女。

あッ

ハッ

はッ

それが今、  
こうして彼女自身に  
なってしまったんだ。

ピ

ピ

止めようと思っても  
止められるわけがない。

ゴメン……  
山崎さん。

それどころか――

あッ

じゃ

あッ

あッ

ピッ





女の子の方が  
感じやすいというのは  
当たり前だなと思う。

触れる空気一つとっても  
比にならないくらい  
敏感なんだから。

ズ  
ッ

ズ  
ッ

こんなの  
男の僕には――

あ  
っ  
あ  
っ  
あ  
っ  
!!

あ  
っ  
あ  
っ  
あ  
っ  
!!

あ  
っ  
あ  
っ  
あ  
っ  
!!

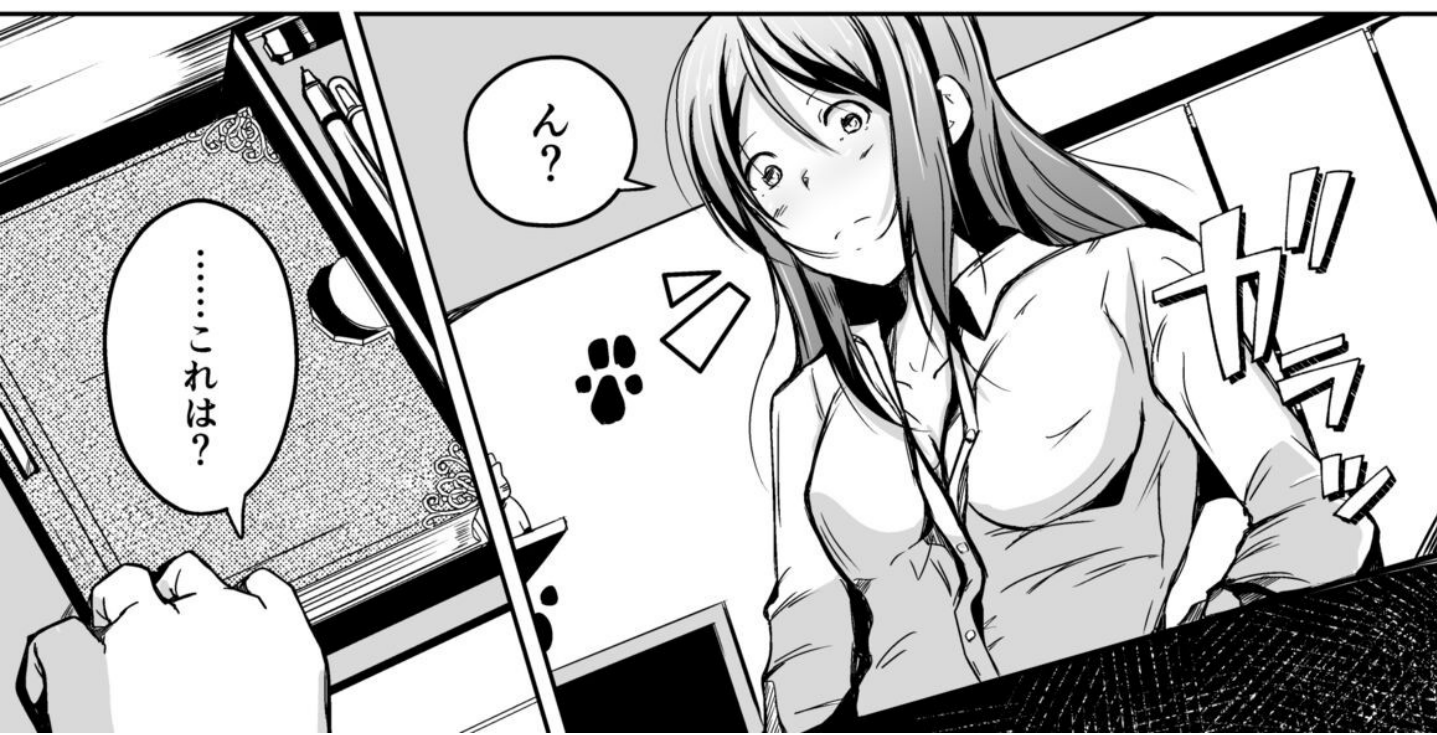
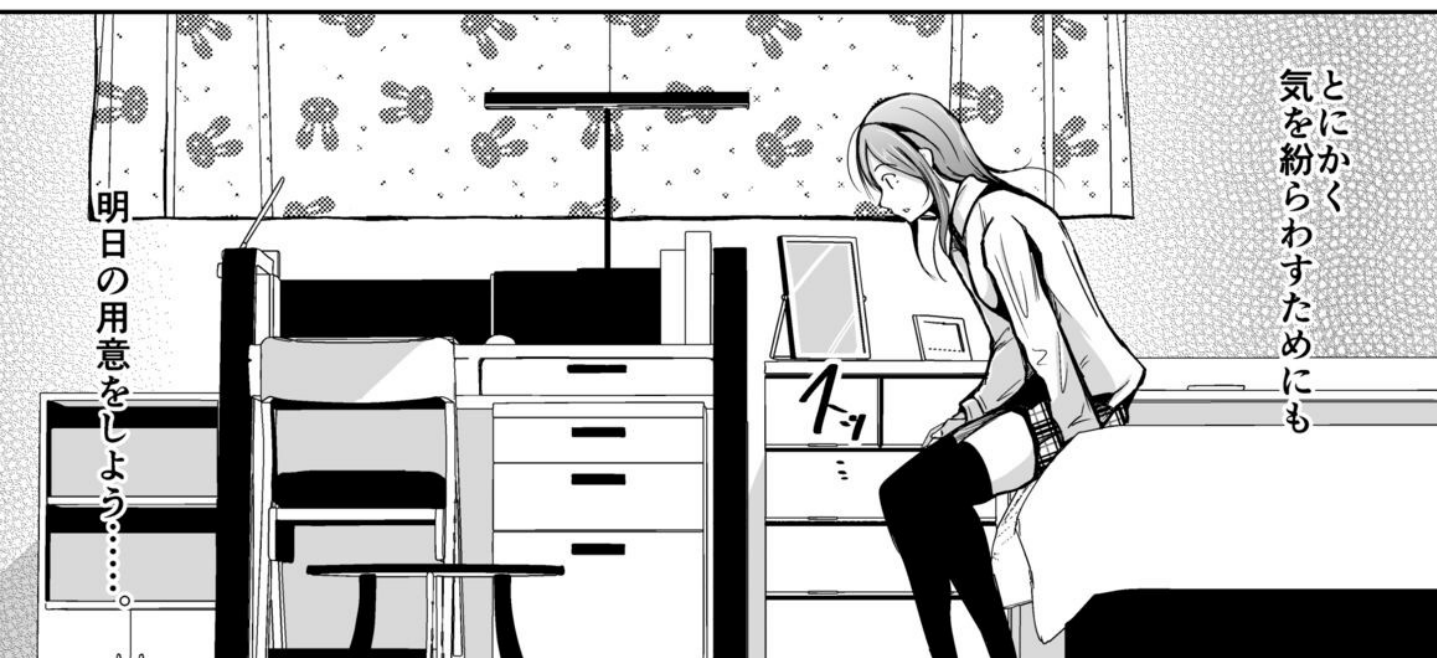
あ  
っ  
あ  
っ  
あ  
っ  
!!

しか  
も  
感  
じ  
る  
箇  
所  
が  
た  
く  
さ  
ん  
あ  
る  
。



く  
る  
ッ  
ン  
♡

んが……  
あ

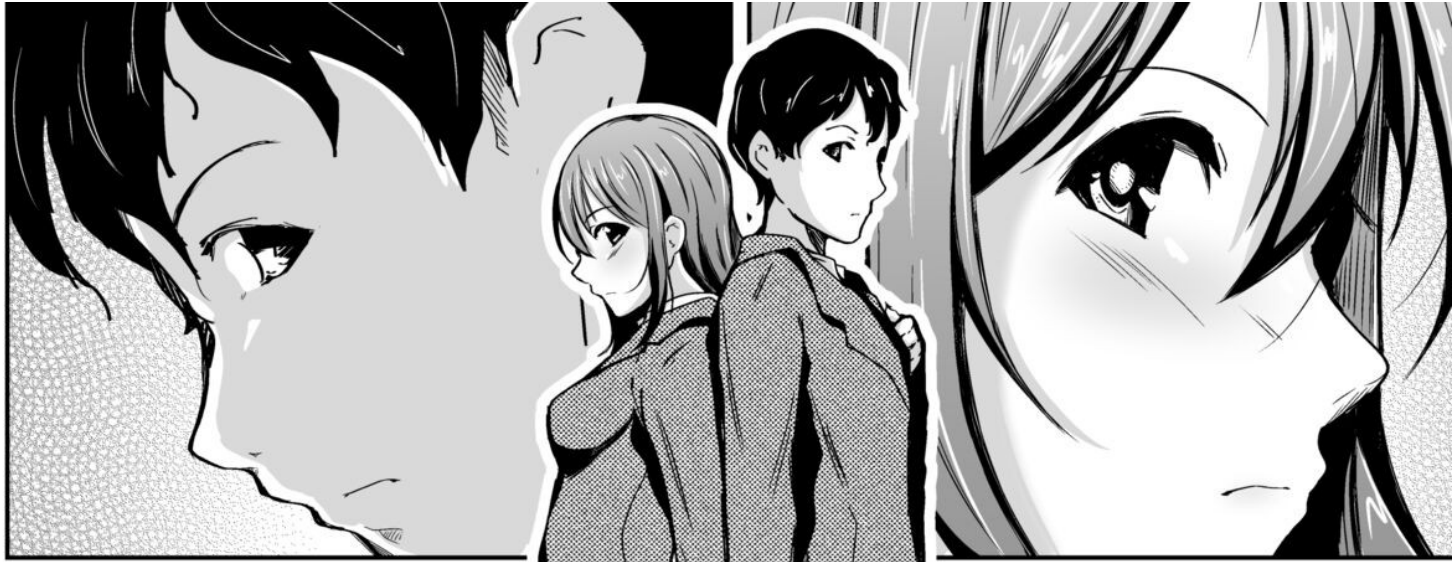














どうした?  
その髪型!

すげー  
似合ってるじゃん!

そっかなー?

……ねえ。碧。

最近、宮城って  
変わった気が  
しない?

そ、  
そうかな?

……うん。  
変わったよ。

実はさ。  
凄く気になるんだよね。

……告ろうかな。

そんなに  
驚く事?

そ……そっか。  
って、

びび!





え？私が？

うん。

ガッ

私、ハズいから  
宮城を呼び出して  
くんない？

というわけで、碧



最近、  
よく話してるじゃん！

お・ね・が・い！

碧！

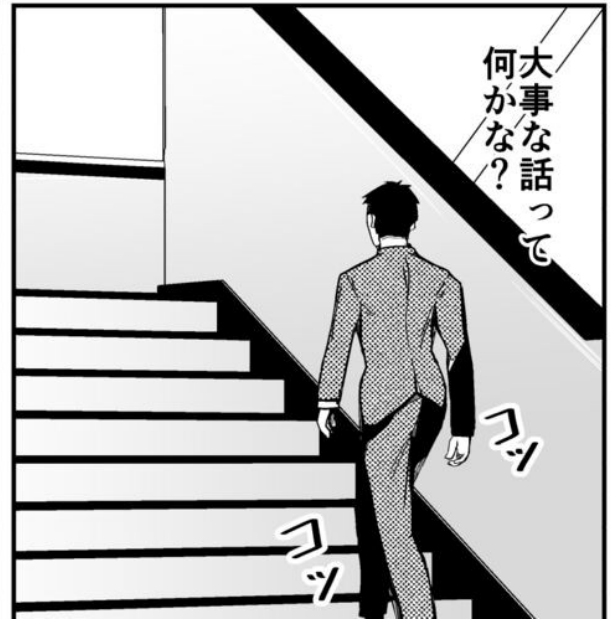
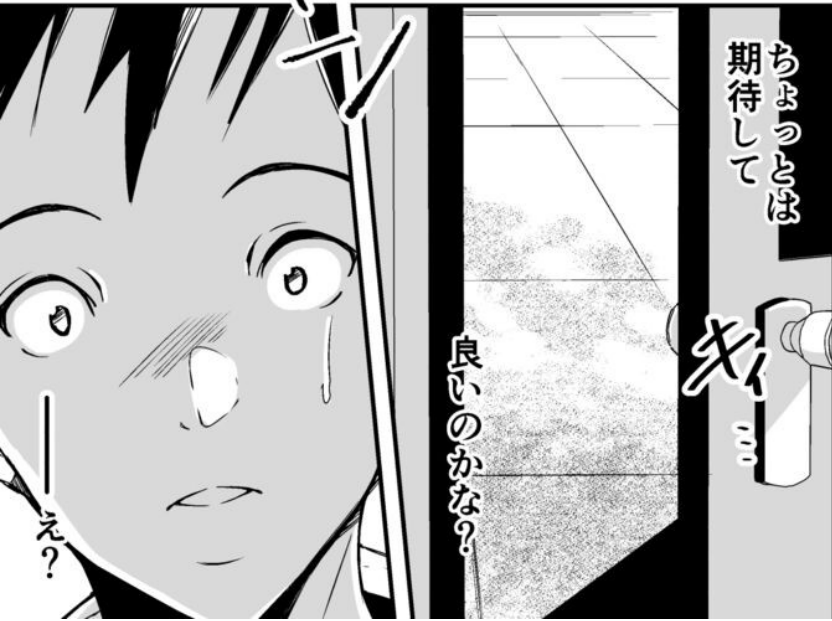
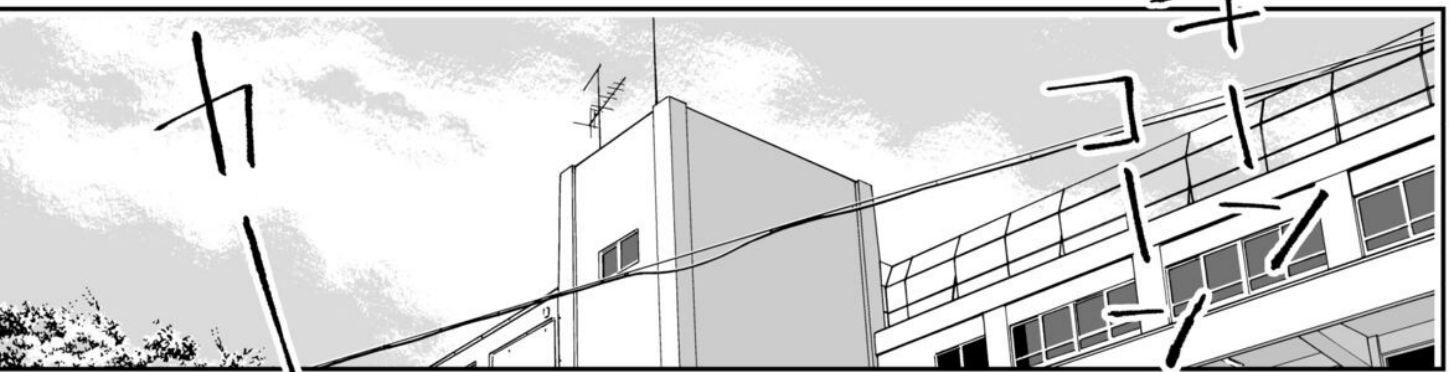
なんで僕が  
こんな役回りを。

やったー！

顔近っ！  
離してっ！

うん……  
うん。

わかったから……

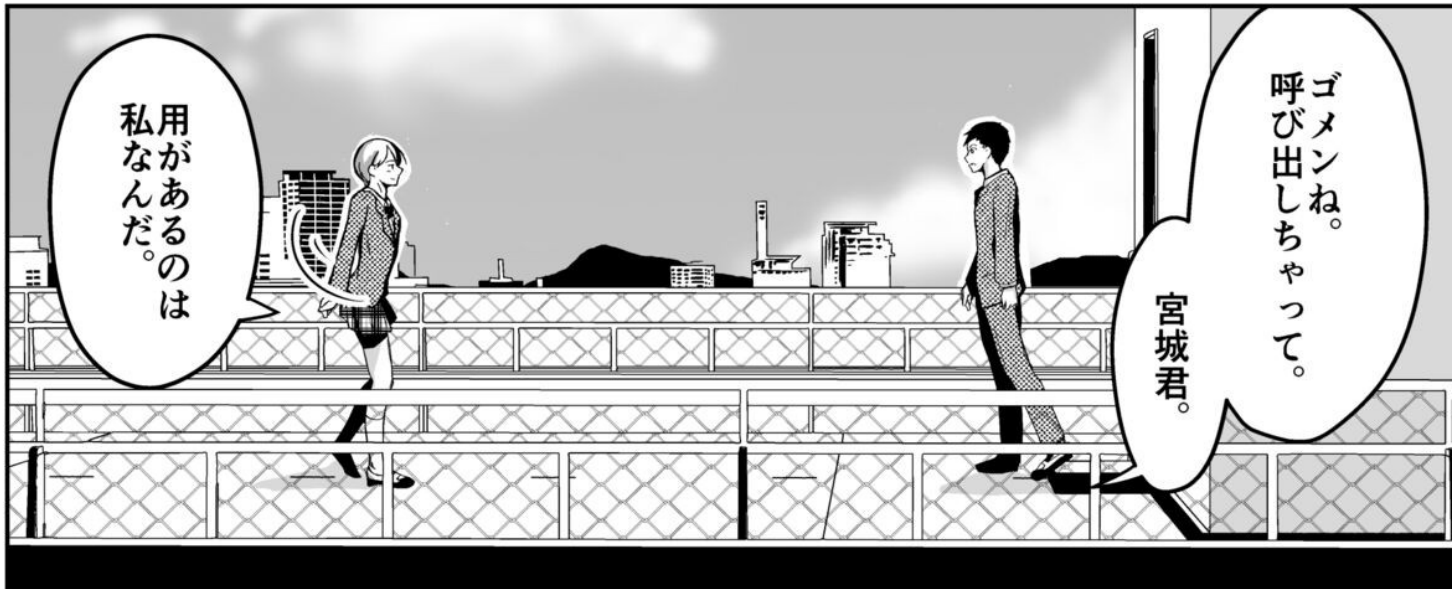






響が

何故ここに――？



ゴメンね。  
呼び出しちゃって。

宮城君。

用があるのは  
私なんだ。



十あまよっ。

実は私……  
宮城君の事が



ダメ！響！  
それ以上続きを

――  
言わないで！



あのね！

宮城君っ！



隠せてると思ってるの  
碧だけだよ。



私ホントに  
告るからね！

碧は良いの？

自分の気持ちに  
嘘ついて！



私は知ってる。  
アンタが昔から  
宮城の事を好きな事。

好きなんだ。

安心しな。  
宮城もアンタの事  
絶対好きだから。



だから、  
早くおいで……。

何をやってるんだ僕は！

とっくに知っているのに！



山崎さんの  
気持ちを！



ゴメン。角さん。  
僕、好きな人がいるんだ。

響！ゴメン！  
私、ずっと黙ってた！

私も……

み……  
宮城君の事が好き！

頑張ったね。  
碧。

え？  
宮城君？

自分の気持ちに  
嘘をついてるのは  
私だな。

なんてね。

私、本当は  
あなたの事が好きなの。

碧……。  
あなたの事が。

冗談だから！

宮城！  
さっきの  
私の言葉忘れて！

それにあなた  
好きな人って  
碧の事しょ？

お幸せに！

じゃーね！  
お二人さん！



私の気持ちに  
気付いててわざと……。

響。ありがとう……。

ゴメン。

僕が優柔不断な  
ばっかりに

山崎さんにも角さんにも  
嫌な思いさせて。

ううん。  
嫌なんかじゃない。

嬉しいよ！

私だったら  
多分……

言えなかったと思う。

響の好意を  
踏みにじってたかも  
知れない……。

宮城君！

えっ！

きゃ  
……





なんだか  
すごく不思議。

うん。

初めての人が  
好きな人で……

ドキ  
ドキ

しかも、  
自分だなんて。

そのおかげかな？

そこまで恥ずかしく  
感じないのは。

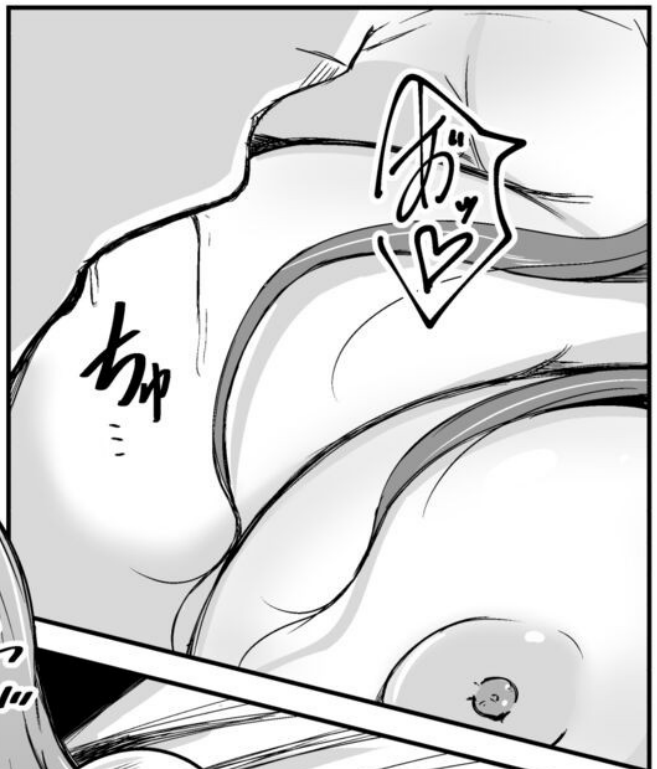
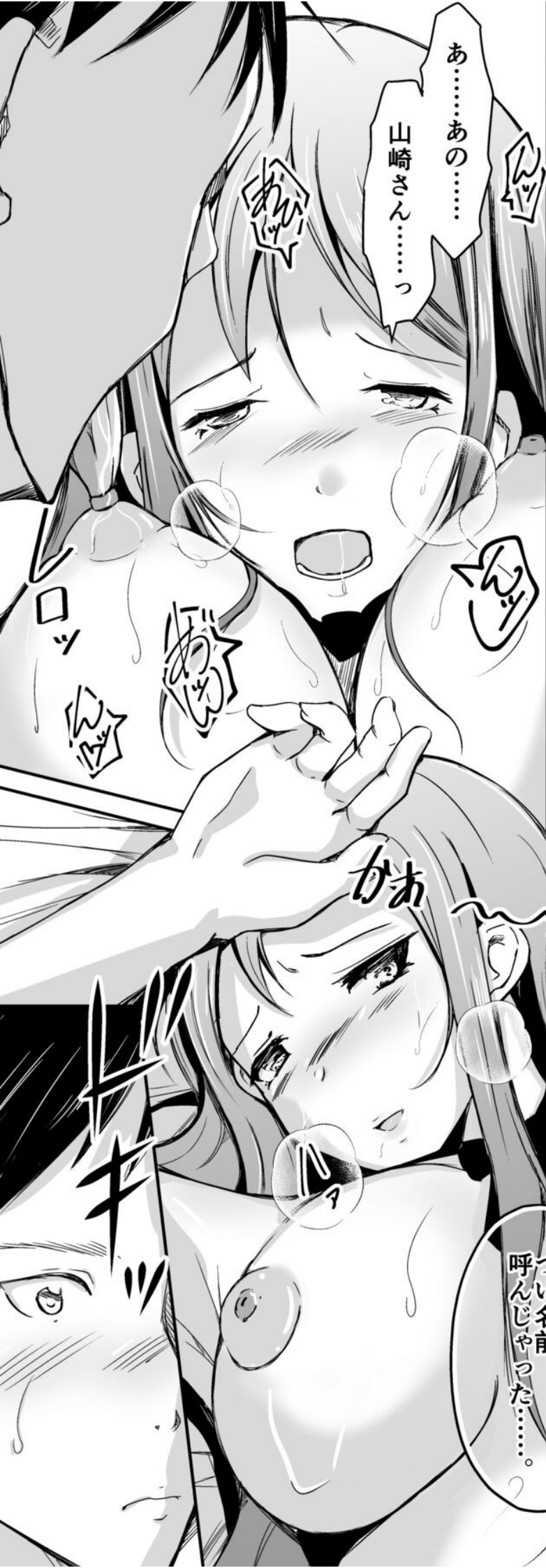
え？

いや、あの……

僕、無茶苦茶  
恥ずかしいんだけど……

あはは。  
宮城君。  
ホント女子みたい！

かあぁぁ\*





ところでさ

宮城君って  
ホント凄いよね。

えっ？

メイク  
私より  
上手くない？

それにスキンケアだって  
完璧だし。

だって、それは  
山崎さんの身体だから……

ありがとう。

……山崎さん？

大切にしなければって  
思ってる。

ただそれだけで……  
僕は何も……

アナタの  
そういう所が好き。

ああ。山崎さんに  
「好き」って言われたから

おっ

んんん  
んんん

ズッ  
ズッ  
ズッ

んんん  
んんん

体中が  
温かな気持ちで  
満たされてくように感じる。

これが、女の子の  
「快感」なのかな？

おっ

繋がりたい……  
もっと満たされたい。

んんん  
んんん

んんん  
んんん

んんん  
んんん

もっと、もっと……  
一緒に……

山崎さん……  
僕、もう……

うん。  
わかってる。



じゃあ。  
挿入るね。

ピ  
ピ  
ピ

うん。

動くよ？

……うん。

今、確かに繋がってる。  
僕と山崎さんが……

ハッ

ハッ

ただそれだけなのに  
なんでこんな  
嬉しいんだろう。

安心できるんだろう。  
嬉しいんだろう。

ああ。そうか。









いっけー  
おーおー  
おーおー

いっけー  
おーおー  
おーおー

いっけー  
おーおー  
おーおー

入れ替わってはじめて

僕は君の  
「本当」の好きに

触れる事ができたんだ。

ぎゅっ

# いわした書店

2020/12/19

入れ替わって初めて僕は君の好きに触れた

著者:いわした

pixiv:14897019

twitter:iwashitan

web:<https://www.iwashitan.com>